

**生徒がまじめに語る機会をつくることで
生徒の意識を変える**

6月号の特集を読み、日頃、学校生活を共にする生徒たちがまじめに「自分のこと・未来のこと」を語る機会をつくることで、生徒の意識を変えることが出来るのだと感じた。埼玉県立大宮光陵高校の久保昌島一校長は「自分の考えを十分に表出できて、ようやく生徒の視線は他者へと向けられていく」と言われていたが、自分の考えを身近な仲間話すためには生徒同士の信頼関係を築くことが前提であり、その部分で多くの時間が必要である。表面的、マニュアル指導ではない、生徒の中をしっかり入っていく指導が求められると感じた。
[京都府・匿名希望]

学校文化を継承させる師弟関係に感動

6月号「私を育てたあの時代、あの出会い」を読み、学校の「文化」がどのように継承されていくのだと素直に感動した。熊本県立熊本高校の原田大賢先生が、体重が5kgも落ちても仕事と向き合い、「仕事と宴席は断らない」という信念に基づいて仕事をされている姿に頭が下がる。熊本県立済々黌高校の山本朝昭副校長が原田先生を評する「周囲の思いを察知して先回りして動いてくれる行動力」という言葉からも、原田先生の精力的な仕事ぶりがかがえる。また、山本副校長の「若手は、経験から学ぶことが出来ないのであれば、先輩から学ぶしかない」という言葉には、自分自身、積極的に学校経営に参画しながら、若手を育てていく年代になった。

Reader's VIEW

Volume **3**

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

言葉だけでなく、自分の背中で若手を育てられるような実践を積んでいきたい。
[滋賀県立守山中学校・高校・堀浩司]

**若手教員の発想を生かしながら
学校を活性化させる必要性を感じた**

若手教員の増加はどの県でも見られるが、彼らの指導力を向上させ、その新しい発想を生かしていくことが、今後の学校の活性化につながると思う。6月号「指導変革の軌跡」の兵庫県立神戸高校が実践している実力考査を通じた作問能力向上と実力考査後の研修会は、若手を育成する上でも、またベテランの持つノウハウの継承の意味でも重要だと思った。
[和歌山県・匿名希望]

「共に育てる信頼関係」の必要性を改めて確認

若手教師にとって保護者と向き合って何をするか、何を話すかは大きな課題だ。どの学年でも同じだが、「共に育てる信頼関係」に尽きると思う。特に1年生では、6月号「生きたデータの徹底研究」でも指摘されているように、保護者のニーズに合わせ、進路情報を提供する必要がある。保護者、教員の共通の課題を見つけることが大切だと考える。
[福島県立相馬高校・武内義明]

教師川柳

担任は実りの秋のサポーター

埼玉県・氷川の杜

**「VIEW21」高校版は
ウェブサイトでも
ご覧いただけます！**

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで公開しております。誌面のPDFや「生きたデータの徹底研究」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



編集後記

◎変化する社会を生き抜く上で必要な力とは何なのか。その答えを求め、多くの先生にお話を伺い、たどり着いたのが、「軸をつくる力」とその軸に基づいた「修正力」です。これらの力の育成について、今号からシリーズで考えていきます。(柏木)

◎「1人でも多くの高校生に、進路実現の可能性を広げてほしい」という願いが今回の「修正力」の特集になりました。生徒が生きる上での軸を持ち、これからの社会に立ち向かっていけるためのご指導の参考としていただければ幸いです。(竹内)

VIEW21 8月号 Vol.3

2014年8月23日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川 潤、谷口 哲、ヤマガチイキ
 イラスト協力 カモ
 VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング14階
 電話 03-5320-1215

©Benesse Corporation 2014

VIEW21

2014
October
10
月
Volume 4

次号は
10月24日発行(予定)

「VIEW21」高校版は
年6回の発行です